

## 鴨川公園へのドッグラン設置要望について

鴨川公園へのドッグラン設置の要望がありました。

### ドッグ・ランとは

ドッグランとは、犬をノーリードで自由に遊ばせることができるように、フェンス等で区切った専用広場のこと。

近畿における都市公園での自治体設置例 大阪府 3箇所、和歌山県 1箇所

京都府知事 山田 啓二様

### 要 望 書

平素は、府民のより安心・安全な暮らしの実現のために、日々ご尽力を賜っております山田知事をはじめ、関係各位の皆様には衷心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、京都府では各地域の魅力や資源を最大限に生かし、そこに暮らす人々と共に、より良い『地域（まち）づくり』についての各施策と事業を展開され、いわゆる『地域力』の向上に努めておられます。

とりわけ、京都の未来におけるキーワードとなるのは、真に「環境と文化」であり、その象徴の一つでもあります鴨川は、治水のみならず、まさしく府民が「環境」を身近に感じる大切な自然の資源でありますと同時に地域づくりの柱となる資源であります。

この鴨川の河川環境の整備と保全にあたりましては、京都府鴨川条例を制定し、鴨川河川整備計画検討委員会を開催され、鴨川水辺の回廊創造事業を順次実施されることと伺っております。

そこで、私共は長年の希望であります『ドッグ・ラン』の設置を鴨川における公共空間の整備事業に位置付けていただき、鴨川公園における人や自然との交流・共生の観点および動物愛護の観点からも設置についてご検討をいただきたく要望申し上げます。

2009年8月4日

## 鴨川公園における人や自然との交流・共生を考える

### 公園の意義

公園は多様な機能をもっている。すでに互いをよく知っている仲間同士で出かけて行って、自然と接しながら交流を深めたり、連帯を高めたりすることもあるかもしれない。しかし、都市にある公園は、それにもまして、日常の現実や集団から離れて、普段とは違った視線で世界と接触したいという人々の欲求に応えようとしているのではないだろうか。

肩書を持たない単なる市民の一人が、互いに知り合いではないもう一人の市民と、ふと言葉を交わす。異質な人（他者）と触れ合うことによって、その時、思ってもみないような感性や思考に触れ、自身の世界の感じ方をリフレッシュする。自然との交流を含めて、そういうものが本当の意味での交流ではないだろうか。

むしろ、それは社会のどのような場所でも起こりうることである。しかし、都市の公園は、そのようなチャンスを飛躍的に拡大する。なぜなら、一人になるために公園に来る人を含めて、人々は日常的に閉じた自分の世界をリフレッシュするために公園に来るからである。

### ドッグ・ラン設置の意味

見知らぬ人々同士の交流という点では、公園で犬を散歩させている人々の間で特に顕著な現象である。犬たちが見知らぬもの同士、友達になって遊びたいという強い欲求を性格として持っているからである。必然的に飼い主たちは犬に引きずられて様々な人々との交流をもつことになる。

しかし、考えなければならないのは、公園には犬に慣れていない人も、犬が嫌いな人もいるということだ。当然、飼い主たちは活発な遊びと交流を望む犬たちの欲求を極端に抑えなければならない。迷惑を感じるかもしれない人々のことをいかに配慮しても、トラブルはいつ起こらないとも限らない状況だ。

そこで、アメリカの都市公園には必ず設置されているドッグ・ランの設置について考えたい。ドッグ・ランは差し当たり犬と人間とのトラブルを避け、共存を図るための隔離設備である。しかし、それは単に隔離するためだけのものではない。ドッグ・ランによって、犬はその運動・遊び・交流の特性を障害なしに発揮・展開することができる。（実際、特に老人にとって愛玩犬の意義は認められていながら、ドッグ・ランなしには犬の特性を押し殺していなければならないのが現状だ。）そして、それによって、それ以外の場所においてはリードによってコントロールしなければならないというルールより厳格な徹底を容易

にすることができる。一方、犬が嫌いな人に対しては、犬に対する理解のチャンスを提供し、場合によっては誤解や偏見を解く機会になる可能性がある。そのことは、犬を友達とすることによって広がる交流をきっかけにして、自分とは異質な存在との共生の喜びに向けて、私たちを押し広げる可能性をもっているのである。